

3 第五回會議(昭和3年3月15日〜24日)

57 昭和3年2月18日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

ソ連の軍備全廃案に対する我が方態度につき

請訓

パ リ 2月18日後発
本 省 2月19日前着

第二十七号

客年十一月軍縮準備委員会ニ於テ「ソビエツト」代表ノ提出セル軍備全廃案ハ三月十五日ヨリ開催ノ次回委員会ノ議題ニ上リ居ル処軍縮問題ニ関スル從來ノ御訓令ニ依ルモ我方トシテハ同案ニ反対スヘキコト勿論ノ儀ト存セラルルモ若シ他ノ方面ヨリシテ同案ニ正面ヨリ反対セス只表決ノ際反対投票ヲナスノ程度ニ止ムル方我ニ取リ有利ナリトセラルル理由モアラハ右様取計フコト然ルヘシト存スルニ付本官心得迄右ノ点ニ関シ何分ノ儀奉府宛御回電ヲ請フ

58 昭和3年2月21日 在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)

ソ連の軍備全廃条約案および同説明書について

モスクワ 2月21日後発
本 省 2月22日前着

第四八号

本月十五日「リトヴィノフ」ヨリ連盟事務総長宛發送セル趣ナル軍備撤廃条約案及同説明書本二十一日發表セラレタリ同条約案ハ前文五章六十三条ヨリ成リ第一章ニ於テハ軍人軍属ノ解体第二章ニ於テハ兵器軍需品ノ破棄第三章ニ於テハ防備ノ限度第四章ニ於テハ条約実施ノ監督第五章ニ於テハ追加条約及批准等ニ付規定シ四年ノ期間ニ於テ世界一般ニ完全ナル軍備撤廃ヲ行フ立前ノ下ニ条約実施ノトキヨリ戦争ノ可能ヲ制限スル為実施ノ第一年ニ於テ軍隊ノ五〇%ヲ解除シ兵器余部ノ全部ヲ破棄シ軍艦飛行機ノ主力ヲ廢艦シ軍事上ノ施設ヲ廢止スルコトシ次ノ三年ニ於テハ軍ヲ全廢シ部隊ニ配給シアル兵器ヲ破棄シ軍艦及飛行機並ニ

軍需品製造ノ為ノ材料ハ之ヲ破棄スルカ又ハ平和的目的ノ為ニ充当スルコト軍事予算ヲ廢シ軍備撤廃ニ関スル事務ヲ

文憲ノ管掌ニ移スコトシ少数ノ防備(税関防備山林防備民警並少数ノ小型軍艦)及少数ノ個人用武器(狩獵及護身用等)ノミヲ保存スルコト解体セラレタル軍人軍属及軍事工業ニ従事セル労働者ハ平和的の方面ニ職ヲ得ル迄国家ニ於テ其ノ生活ヲ保障シ之ヲ文化経済的建設ノ為ニ利用スルコト条約実施ノ監督ハ立法府輿論労働者代表者ノ平等参加ヲ主義トシテ組織セラルル常設国際委員会各国委員会及各地方委員会ニ委任スルコトトセリ
条約案及説明書ハ訳文ト共ニ郵報ス

59 昭和3年2月23日 田中外務大臣より
在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長宛
(電報)

ソ連の軍備全廃案に対する我が方態度につき

回訓

本 省 2月23日後発

第一号

貴電第二十七号ニ関シ

貴電末段ノ趣旨ニテ取計ハラレ度シ

60 昭和3年2月27日 田中外務大臣より
在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長宛
(電報)

艦艇制限様式に関する我が方方針につき回訓

付記一 昭和三年二月四日付在パリ加藤(隆義)海軍代表より海軍次官、軍令部次長宛機密一番電
次回軍縮準備委員会における艦艇制限様式に
関し請訓

二 昭和三年二月二四日付大角(岑生)海軍次官より出淵(勝次)外務次官宛官房機密第二二七号
ノ二
艦艇制限様式に関する海軍側の意見

本 省 2月27日後発

第三号

海軍代表発海軍次官宛機密第一番電ニ関シ

一、仏案ニ対スル我修正意見ハ實質上帝国從來ノ主張タル

艦種別制限方式ト略々一致スルモノナルハ海軍次官発古賀宛官房機密第二五四番ノ通ナルモ要スルニ我方主張ノ趣旨ヲ捨テサル程度ノ調停案トシテ提示セルモノニシテ我方本来ノ主義ヲ改変スルノ意ニアラス英米ノ意向判明セサル内我方ヨリ進ムテ修正案ノ要旨ヲ主張スルハ帝國カ從來ノ主義ヲ變更シテ他國ト提携セルヤノ感ヲ与フルノ嫌アルニ付前回ノ如ク特ニ必要アル場合ニ限り提示スルニ止メラレ度シ

二、補助航空母艦ヲ将来制限外ニ置クコト並水上補助艦トシテ巡洋艦驅逐艦ト混合セシムルハ共ニ帝國ノ立場上不得策ニシテ適當ノ時機ニ於テ巡洋艦驅逐艦以外ニ於テ制限スルヲ必要ト認ム尤モ今日ノ狀態ニ於テハ未タ我方ヨリ進ムテ之ニ触ルヘキ時機ニハアラスト思考スル処若シ類別決定ノ問題起リタルトキハ右帝國ノ立場ヨリ見タル要求ト及華府條約規定事項トノ境界ヲ明確ニシ且補助艦ハ飽ク迄補助艦トスル從來ノ方針トニ基キ大正十三年石井大使宛第四〇五号(A)ノ主旨ニ遵ヒ一万噸以下ノ水上補助艦及潜水艦ト並ムテ一万噸以下ノ補助航空母艦ナル新類別ヲ設クルコトニ努メラレ度ク一般ノ情勢之ヲ許ササ

主張スルヲ可トスルコトアルヤモ計ラレスト思考ス右ニ付御意見御内示アリ度

二、一万噸以下ノ航空母艦ニ関シテハ大正十三年松田局長宛本第四〇五番電大正十五年杉村局長宛条三機密第五六号及三國會議中六月二十七日官房機密第六番電第三項等ノ次第モ有之艦艇制限様式中ニ之ヲ華府協定ノ航空母艦ト共ニ航空母艦種別ニ含マシムルモノトシ差支ナキヤ右佐藤公使承知本電並返電ハ外務省ニ回示アリ度

(欄外記入)

二月七日午前杉山中佐ヨリ

四日

(付記二)

官房機密第二二七号ノ二(極秘) (2月24日外務省接受)

昭和三年二月二十四日

海軍次官 大角 岑生(印)

外務次官 出淵 勝次殿

軍備縮少準備委員會海軍軍備制限ニ関スル件

本件ニ関スル加藤海軍代表發海軍次官宛機密第一番電ニ對

ルニ於テハ最後案トシテ航空母艦ヲ更ニ華府條約ニ依ル一万噸以上ノモノト一万噸以下ノ補助航空母艦(飛行甲板ヲ有スルモノ)トニ細別スルコトニ讓步セラルルモ差支ナシ

三、本電海軍代表ヘ伝達アリ度シ

(付記一)

パリ 2月4日後發

海軍省 2月5日前着

機密一番電(極秘)

三月十五日ヨリ開催予定ノ軍縮準備委員會ニ於テ一般條約案第二讀会開催ノ場合右ノ件心得ノ為承知シ置度

一、第一讀会ニ於ケル艦艇制限様式仏案ニ對スル我修正意見(昨年八月十日付次官次長宛經過報告書三十六頁参照)ハ昨年十二月小官第三番電古賀長官第三五番電及最近「ドルーズ」中佐ヨリ佐藤公使並小官ニ内話アリタル所ニ依ルモ他國側ニテハ大体之ニ賛成ナルヤニ思ハル所艦艇制限様式協定ノ成立ヲ容易ナラシムル為將來會議ノ模様ニ依リテハ必要ナル場合臨機我方ニ於テ更メテ之ヲ

(欄外記入)

シ別案ノ趣旨回訓可然當方ノ意見ニ有之候処重要案件ト認メラレ候ニ付貴省大臣ヨリ佐藤局長宛回訓方御取計相成度右申進ス別紙添付

(別紙)

加藤代表發海軍次官宛機密一番電ニ對スル回

訓案

貴機密一番電ニ関シ

一、仏案ニ對スル我修正意見ハ實質上帝國從來ノ主張タル艦種別制限方式ト略々一致スルモノナルハ海軍次官發古賀駐仏武官宛官房機密第二五四番電通ナルモ要スルニ我主張ノ趣旨ヲ捨テザル程度ノ調停案トシテ提示セルモノニシテ我方本来ノ主義ヲ改変スルノ意ニアラス英米ノ意向判明セザル内我方ヨリ進ンデ修正案ノ要旨ヲ主張スルハ帝國ガ從來ノ主義ヲ變更シテ他國ト提携セルヤノ感念ヲ他國ニ与フルノ嫌アルヲ以テ前回ノ如ク特ニ必要ノ場合ニ限り調停案トシテ提示スルニ止ムル方針ニテ進マルベシ

二、補助航空母艦ニ関シ同艦種ヲ将来制限外ニ置クコト並

ニ水上補助艦トシテ巡洋艦駆逐艦ト混合セシムルコトハ
共ニ帝國ノ立場上不得策ナルヲ以テ適當ノ時機ニ巡洋艦
駆逐艦以外ニ於テ明ニ制限範圍内ニ入ルルヲ必要ト認ム
尚今日ノ狀態ニ於テハ未ダ我ヨリ進ンデ本問題ニ触ルベ
キ時機ニアラズト認ムルモ若シ類別決定ノ問題起リタル
トキハ右帝國ノ立場ヨリ見タル要求ト及華府條約規定事
項トノ境界ヲ明確ニシ且補助艦ハ飽ク迄補助艦トシテ分
界取扱フ從來ノ方針トニ基キ大正十三年石井大使宛第四
〇五番電第八項ノ主旨ニ遵ヒ一萬噸以下ノ水上補助艦及
潜水艦ト並ンデ一萬噸以下ノ補助航空母艦ナル新類別ヲ
設クルコトニ努メラレ度若シ一般ノ情勢之ヲ許サザレバ
最後案トシテ航空母艦ヲ更ニ華府條約ニ依ル一萬噸以上
ノモノト一萬噸以下ノ補助航空母艦(飛行甲板ヲ有スルモ
ノ)トニ細別スルコトニ讓歩セラルルモ差支ナシ

61 昭和3年3月3日

在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

海軍問題に関するカッシーエンダン英國代表の内話について

居ルカ如キモ未タ表立チテ提議セラルルニ至ラス米國専門
委員等既ニ出發後ノコトニモアリ且独逸側ハ中々延期ニ同
意ス間敷キニ付果シテ英國ノ註文通延期トナルヘキヤ疑問
ナリ(本官ハ既ニ必要ノ御訓令ニモ接シ居ル儀ニ付傍觀ノ
態度ヲ執ルコト致スヘシ)
仏國側ヨリ内聞スル処ニ依レハ仏案艦種別噸數融通ニ付一
艦種ノ全部ノ噸數ヲ他ノ艦種ニ移スコトヲ主張スル要アラ
ス該噸數ノ一部則チ數十「パーセント」ヲ限り融通スルコ
トトシ満足スヘシト言ヘリ
尚準備委員會開催トナラハ其ノ会期中武器民営委員會モ再
開ニ至ルヘキ模様ナリ

62 昭和3年3月21日

在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

ソ連の軍備全廃案に關して我が方の行なつた 声明について

ジュネーヴ 3月21日後発
本 省 3月21日後着

第一九号

第五号

最近「クッシーエンダン」ノ本官ニ語ル処左ノ通

軍縮準備委員會ノ海軍問題ニ関シ其ノ内仏國側トハ意見交
換ヲ試ムル積リニテ其ノ場合最後ノ「ボンクール」案ハ其
ノ儘承認スルコト不可能ナルモ同案艦種別ニ依リ大艦艦種
ヨリ小艦艦種ニ向ヒ噸數ヲ融通スルヲ許ス(小艦ヨリ大艦
ニ向フ融通ニハ同意シ難シ)カ如キ条件ヲ以テ進マハ仏國
側トノ妥協ハ左迄困難ナラスト信ス三月十五日ヨリ第二読
会ニ入ルハ事實不可能ト思考スルニ付自然延期ノ外ナカル
ヘク仏國側トノ交渉ニモ充分ノ時ヲ得ヘキ積リナリ唯米國
側ハ「ギブソン」「ジョーンス」等再ヒ出馬スル由ニテ(此
ノ点ニ関シテハ本官モ他方面ヨリ確聞セリ)是レ米國政府
カ準備委員會ニ重キヲ置ク証左タルヘク而シテ同政府カ如
何ナル提議ヲ為スヘキヤ全ク不明ニシテ寔ニ厄介ナリ云々
同卿ノ口吻ニ依レハ海軍問題ニ関スル困難ハ英仏間ヨリハ
寧ろ英米間ニ生スヘシト予測シ大ニ懸念シ居ルモノノ如シ
第二読会延期說ハ英國ノミナラス仏國側モ内々之ニ賛成シ

「ソビエツト」提案ニ関シ二十日午後ノ會議ニ於テ我方ノ
為シタル声明要旨左ノ通

「ソビエツト」提案ノ出發点ハ一般的且絶對的軍縮コソ之
ニ相当スル絶對的安全ヲ齎スヘシト云フニアル処右ハ我方
從來ノ主張即チ先ツ或程度ノ安全保障アリテ初メテ之ニ伴
フ軍縮ヲ行ヒ得ヘシトノ觀念ト相反ス吾人等カ右立場ヲ採
ルハ規約第八條ノ規定ニ基クモノニシテ右規定ハ軍備全廃
ヲ予見セス軍備ノ制限又ハ縮少ヲ規定スルニ過キス軍縮準
備委員會ノ權限ヲ定メタル第六回總會ノ決議モ亦然リ從テ
吾人カ「ソ」提案ヲ議セムカ為ニハ規約ノ改正ヲ要スル外
委員會ノ權限ヲ變更セサルヘカラサル処右ハ總會及理事會
ニ之ヲ求メサルヘカラス實際的見地ヨリスルモ國際連盟カ
当初ヨリ拋棄セル軍備全廃案ノ研究ヲ今再ヒ茲ニ繰返スノ
必要アリヤ否ヤハ大ニ疑問ナリ

連盟國ハ規約ニ基ク權利及義務ヲ有シ規約ヲ逸脱スル行動
ニ出ツル能ハス此ノ点ニ於テ非連盟國タル「ソ」連邦トハ
自ラ其ノ立場ヲ異ニス吾人ハ非連盟國タル「ソ」連邦代表
ノ立場ヲ諒トスルト同時ニ同代表モ亦連盟國タル吾人ノ立
場ヲ諒解セラシムコトヲ望ム「ソ」連邦ノ連盟ニ對スル自

ジュネーヴ 3月3日前發
本 省 3月4日前着

由ナル立場ハ吾人ノ事業ノ完成ニ対シ有益ナル貢献ヲ齎スコトヲ得ヘク其ノ意見ニ於テ吾人ハ同代表ノ協力ヲ切望セサルヲ得ス

在露大使へ転電セリ

63 昭和3年3月21日 在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

ソ連の軍備全廃案に関するリトヴィノフの挑
戰的質問について

ジュネーヴ 3月21日前発
本 省 3月22日前着

第二〇号

軍縮準備委員会ハ十九日午後「ソビエツト」提案ノ討議ニ入りタルカ劈頭「リトヴィノフ」ハ該案ノ細目ノ審議ヲ為スニ先立チ(一)該案所掲ノ期間内ニ完全ナル軍備撤廃ヲ実行ストノ根本主義ニ基キテ委員会将来ノ事業ヲ継続スルコト(二)一年ノ期間内ニ右軍備撤廃ノ第一歩ヲ遂行スルコトノ二点ニ付委員会カ同意スルヤ否ヤノ決定ヲ求ムルコト必要ナリトシ且總テノ大國ノ代表者ヲ有スル本委員会ニ於テ輿論環

視ノ下ニ右問題ニ対スル各國政府ノ明確ナル回答ヲ得度シトノ挑戰的質問ヲ為シタルヲ以テ我方トシテモ此ノ際沈黙ヲ守ルハ大國ノ面目ヲ汚シ却テ「ソビエツト」ノ輕視ヲ受クルニ至ルヘキヲ惧レ独、伊、仏、英各代表ニ続キ往電第一九号ノ如キ声明ヲ為シタル次第ナリ

在露大使へ転電シ在欧米各大使へ暗送セリ

64 昭和3年3月25日 在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

ソ連の軍備全廃案の否決と同国よりの軍備一部撤廃案提出について

ジュネーヴ 3月25日後発
本 省 3月25日後着

第二一号

軍縮準備委員会ハ十九日より連日軍備全廃ニ関スル「ソビエツト」案ヲ討議シタル結果殆ント全会一致ヲ以テ同案ヲ本委員会事業ノ基礎タラシムルヲ得ストノ結論ニ達シ唯二三代表ヨリ同案ヲ各國政府ノ審査ニ付シ軍縮案第二読會ノ参考タラシムヘシトノ意見出テタルヲ以テ議長ヨリ右

結論及意見ヲ確認スル旨ノ決議案ヲ提出セル処蘇代表ハ委員会カ軍備全廃ノ主義ニ反対スル以上一時同案ヲ撤回スヘキモ右全廃ニ対スル一階梯トシテ軍備ノ一部撤廃ヲ主張ストテ各國ノ軍備ヲ係数ニ依リ縮少スル別個ノ条約案ヲ提出シ直ニ之カ第一読會ニ入ラン事ヲ要求セリ他方独乙代表ハ何等有力ナル理由ナクシテ軍縮条約案第二読會ノ審議ヲ再ヒ延期スル事ニ反対ナリトテ次回總會直後ニ第一回軍縮本

65 昭和3年3月26日 在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

未決問題は関係国間の協議により解決すべし
との仏国代表の演説に基づく第二読会の延期
について

ジュネーヴ 3月26日後発
本 省 3月27日前着

第三九号

會議ヲ召集スヘキ事ヲ理事会ニ懇請スル旨ノ決議案ヲ提出シタルカ執レモ委員会ノ容ルル所トナラス各國(一)軍備全廃案ハ委員会事業ノ基礎トシテ採択シ難シ(二)軍備公表ニ関スル独乙提案(軍事年鑑改善ノ為各國ヲシテ其ノ軍備ヲ一定ノ様式ニ依リ公表セシメントスル案)及「ソビエツト」代表提出ノ軍備一部撤廃案ヲ各國政府ノ研究ニ付シ且次回委員會ニテ之ヲ審議ス(三)条約案第二読會ノ為次期委員會ヲ召集スヘキ時期ヲ議長ニ一任スルト共ニ成可ク本年總會前ニ其ノ開催ヲ見ン事ヲ希望ストノ決議ヲ可決シ二十四日午後閉會セリ

露及独へ転電セリ

過般ノ軍縮準備委員會中三月二十二日午後ノ會議ニ於テ仏國代表「クローゼル」伯ハ「リトヴィノフ」カ英代表其ノ他十八名ノ為シタル「ソヴィエト」案ノ批評ニ対シ反駁ヲ加ヘタルニ対シ再ヒ応酬シタル演説中「各國専門委員間ニ從來ノ未決問題ニ関シ意見交換ヲ見タリ余ハ之カ解決ノ最迅速ナラン事ヲ望ムモノニシテ其ノ成功ノ一要件ハ単ニ専門家間ノミナラス關係國政府間ニ意見交換アルヲ要スヘキ処右ハ都合好ク進行シツツ有リト信セラルルカ故ニ円満ナル解決ヲ見ルモ遠カラサルヘシ」云々ノ一節有リ而シテ仏代表ノ本官ニ内話スル処ニ依レハ同代表カ右ノ一節ヲ加ヘタルハ英代表ヨリノ依頼有リタルニ基ケル由ナリ二十四日

レリト前提シ華府會議ノ成果ヲ略述シタル上英國政府カ他ノ華府條約締約國トノ協定ニ依リ主力艦ノ最大噸數引下及艦齡延長ニ向ヒ更ニ一步ヲ進ムルノ用意アルコトハ曩ニ声明セラレタル通ニシテ吾人ハ關係海軍國ニ於テ其時期到レリト思考セハ何時ニテモ之ヲ実行スルノ覚悟アリト述ヘタルカ同代表ハ二十四日午後本官其ノ他華府海軍條約締約國代表者ニ対シ右演說ノ趣旨ヲ敷衍説明スル意味ノ同文書翰ヲ送付シ来レリ右書翰ハ先ツ二十日ノ演說ニ於テ自分ハ三國會議中英國代表カ本件ニ関シ為セル声明ニ言及シタルモ右演說ノ性質上多少明確ヲ欠クノ嫌アリシニ付今茲ニ英國提案ノ真意ヲ繰返スヘシト前置シ右提案ハ第一ニ主力艦ノ最大噸數ヲ三万五千噸ヨリ三万噸ニ引下クルコト第二ニ主力艦備砲ノ口径ヲ十六吋ヨリ十三吋半ニ引下クルコト第三ニ現存主力艦ノ艦齡ヲ二十年ヨリ二十六年ニ延長スルコト（華府條約代換表ニ基キ締結國ノ權利放棄ヲ含ム）ニ在リ（尤右數字ハ多少ノ伸縮ヲ許ス）而シテ右種協定可能ナリトセハ華府條約所定ノ主力艦代換計画開始前ニ之ヲ実施スル方固ヨリ有益ナルヘシ云々ト述ヘタルモノニシテ何等回答等ヲ求メ居ラス

最終日ノ會議ニ於テ議長ハ第二読會ヲ次回ニ延期スル理由ノ一トシテ前記仏代表ノ声明ヲ引用シ英代表又之ヲ確認セルニ対シ伊國代表「マリニス」將軍ハ自分ノ関知スル限り専門委員間ニモ亦關係國政府間ニモ此ノ種會商ノ行ハレタルヲ聞カス余ハ其ノ成功ヲ熱望スル一人ナルモ客年三月ノ準備委員會中伊國ノ為シタル留保ハ右ノ如キ會商ノ進行如何ニ拘ハラス残存スト声明シ稍々伊國ヲ除外シテ為サレタル意見交換ニ対シ有スル不愉快ノ感情ヲ仄カセリ
右ニ付本官ハ第二読會延期ニ賛成シ仏國代表ノ為セル声明ヲ重要視スル旨ヲ述ヘ且伊國代表ハ留保ヲ為セルモ本代表ハ種々ノ未決問題殊ニ海軍事項ニ関シ關係國間ニ直接商議ノ行ハルルヲ歡迎スルモノナル旨述ヘ置キタリ
仏國代表カ右ノ声明ヲ為スニ至レル動機ハ寿府發往電第五号ノ事情ニ基クモノニシテ伊國ヲ除外セル形トナレルハ同國カ海軍問題ニ関シ何等讓歩ノ態度ヲ示ササルカ為ナリト云フ
露ヘ転電シ英、米、独、伊ヘ暗送セリ

66 昭和3年3月26日 在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛（電報）
軍縮準備委員會における英國代表の主力艦噸數引下げおよび艦齡延長に関する提案について

付記一 昭和三年三月二十七日付在パリ加藤海軍代表より海軍次官、軍令部次長宛機密二番電
英國提案の主力艦問題に関する米、仏、伊國海軍首席委員の意見について
二 昭和三年三月二十九日付大角海軍次官より在パリ加藤海軍代表宛官房機密第二七番電報
主力艦問題に関する我が方海軍の意見
ジュネーヴ 3月26日後発
本 省 3月27日前着

第三八号
軍縮準備委員會二十日ノ會議ニ於テ英國代表ハ「ソビエツト」提案ニ対スル意見ヲ述ヘタル際「ソ」代表カ大戰後海軍軍縮事業ノ既ニ著シク進歩ヲ示セル事實ヲ無視スルハ誤

尚右書翰ノ内容ハ直ニ英國代表部ヨリ「コムミニケ」トシテ公表セラレタリ全文郵送ス
在英、米、伊各大使ヘ転電セリ

（付記二）

パリ 3月27日後発
海軍省 3月28日前着

機密二番電（極秘）

一、第五回軍縮準備委員會三月二十四日終了小官以下巴里帰着會議ノ經過ハ外務電報ニテ御承知アリ度
二、會議終了当日午后ニ至リ初メテ英國代表 Cushendunヨリ主力艦艦型及主砲口径縮小主力艦艦齡延長ニ関シ華府條約締結主要國代表ニ対シ書面ヲ以テ通牒アリタルコトハ外務電報ニ依リ御承知ノ通りナルトコロ本件ニ関シ米仏伊國海軍首席委員ノ意見トシテ小官ニ内談シタル事項左ノ如シ但シ小官ハ本件ニ関シ別ニ意見ヲ述ヘサリシモ仏首席委員ヨリ海軍休日ヲ一九三六年頃迄延ハスコト如何トテ小官ニ意見ヲ求メシヲ以テ日本ハ恐ラク同意シ難キ旨述ヘ置ケリ

(イ) 米国 Long 海軍少将ハ米国ハ華府条約ノ定ムル一九三一年ノ會議開催ニ至ル迄本件ノ審議ヲ欲セス

(ロ) 仏 Jehenne 海軍中將伊 Ruspore 海軍大佐ハ仏伊共目下審議ノ意志無キモ日英米ノ審議ニ付仏伊ハ共ニ自由ノ立場ニアルコト昨年寿府會議ノ場合ノ如シ将来三国協定事項ニ基キ要スレハ考慮ヲ加フルニ吝カナラス

三、會議終了当夜漸ク寿府ニ到着セル米 Jones ハ Long ト共ニ寿府ニ数日静養後巴里ニ来リ更ニ数日滞在ノ筈從テ巴里ニ於テ小官ト自然會談ノ機會アルヘク予想セラルルニ付英提案ノ主力艦問題ニ関シ此ノ際特ニ心得置クヘキ事項承知シ度

(付記二)

官房機密第二七番電報(極秘)

貴機密二番電第三項ニ関シ

主力艦問題ニ関スル帝國海軍ノ意見左ノ通ニ付何等將來ヲ拘束スルコトナク且ツ帝國カ某國ト提携シテ會議ニ臨マントスルカ如キ誤解ナカラシムル様從來通公正ナル態度ヲ持シ必要ニ応シ可然応酬アリ度

「リトヴィーノフ」氏ハ四月二十一日第四期連邦中執委員會第三回會議ノ最終會議ニ於テ軍縮會議準備委員會ニ関シ一時間半ニ亘ル報告演說ヲナシタルカ同氏ハ先ツ軍縮カ世界大戰直前ヨリ唱ヘラレタルモノナルコト等軍縮問題ノ歴史並「ソ」連邦力軍縮準備委員會ニ参加スルニ至リタル経緯ヲ述ヘタル後「ソ」連邦委員ヨリ提案シタル完全ナル軍備撤廃案ニ対スル列國ノ態度ニ付英、伊、和、白、波蘭、勃牙利、芬、希及我國代表ノ演說ヲ引用シ概ネ酷評ヲ加ヘタル傍ラ独逸及土國カ「ソ」連邦委員ヲ支持セルコトヲ多トスト述ヘ軍縮最大ノ障害ハ國際連盟ナリト論シ連盟力軍縮會議ノ為費セル時ト努力ノ莫大ニシテ結果ノ少ナキコトヲ揶揄シ米國ノ戰爭禁止提案ニツキテモ右提議カ或ル種ノ戰爭ヲ認ムルコトナルトテ資本主義國ノ平和主義ト「ソ」連邦ノソレトノ間ニ大ナル間隔アリト論シ「ソ」連邦ノ目的ニシテ連盟及資本主義國ノ不誠意ヲ暴露シ其ノ反面ヲ剝クニアリタリシナランニハ今回軍縮會議ノ結果ニ満足スヘキナランモ世界ノ各國民ヲシテ完全ナル軍縮ヲナサシメントスル「ソ」連邦政府ハ今回ノ不成功ヲ遺憾トセサルヲ得スト弁シ外國ニハ「ソ」連邦ノ平和主義ヲ誹謗セントシ「ソ」

一、主力艦問題ニ関シ一九三一年以前ニ華府条約参加ノ五ヶ國間ニ更ニ或種ノ協定ヲ遂ケントスルニ異議ナキモ英提案ノ内容ニ関シテハ研究ノ余地少カラス
二、此際艦齡主砲口径噸數等ニ触レサルヲ可トシ又進ンテ日英協調スルモノト誤解セラルルカ如キ態度ハ之ヲ避クルヲ要ス

67 昭和三年四月二十五日 在ソ連邦田中大使より
田中 外務大臣宛

軍縮準備委員會に關するリトヴィーノフの帰國

演說について

機密公第一二二号 (5月21日接受)

昭和三年四月二十五日

在「ソヴィエト」連邦

特命全權大使 田中 都吉(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

軍縮會議準備委員會ニ関スル「リトヴィーノフ」報告演說ニ関シ報告ノ件

第四及第五回軍縮會議準備委員會ニ「ソ」連邦委員タリシ

政府カ内政上ノ困難ノ為國民ノ注意ヲ外ニ向クル為「ラトヴィア」「エストニア」「羅馬尼亞」「波蘭」カ攻撃スル戦備ヲ整ヘツツアリトノ風說ヲナスモノアリ吾人ハ右風說ノ根拠又右風說ヲ宣伝スル外交官及武官ヲ知ル此ノ風說ヲナスモノコソ却テ「ソ」連邦攻撃ノ準備ヲナシツツアルニアラスヤ世界ノ形勢ハ一九一四年大戰直前ニ彷彿タルモノアリ安全保障不侵略ノ説行ハルト同時ニ世界大戰直前ニ行ハレタルト同様ノ政治的結合行ハレツツアリ且下世界ニ唯一ノ「ソヴィエト」國ハ未タ微力ニシテ國際間ノ事件カ辿リツツアル恐ルヘキ道程ヲ變更スルノ力ナシ只諸國民ニ其ノ危険ニ付警告ヲ与ヘ得ルノミ列國力軍備ヲ撤廃セサル限り吾人亦國防ヲ忽ニスヘカサルモ「ソ」政府ノ外交政策ハ國內ノ建設事業ヲ完フスル為必要ナル平和ヲ保障セントスルニ在リ決シテ外國ノ利益ヲ侵サントスルモノニアラス「ソ」政府ハ依然全世界労働民衆ノ他ノ理想ノ實現ヲ念トスルト同様完全ナル軍備撤廃ノ實現ニモ努力スヘシト結ヘリ
右報告ノ後連邦中執委員會ハ資本主義國多數ノ反対アリシ為戰爭ノ危険ヲ除ク唯一ノ方法トシテ完全ナル軍備撤廃案ヲ主張シツツ別ニ部分的軍備撤廃案ヲ提議セル連邦委員ノ

行動ヲ是認スル旨及「ソ」連邦ハ戦争ノ完全ナル排除ノ為
アラユル努力ヲナス決心ナルヲ以テ連邦中執委員会及人民
委員會議ハ今後共完全ナル軍備撤廃ヲ主張スヘキ旨ノ決議
ヲナセリ

前記報告演說中目立チタルハ特ニ独逸ノ態度ヲ称揚セル点
ナル処右ハ曩ニ電報ヲ以テ報告ニ及ヒタル「ドン・パス」
炭坑独逸人技師逮捕事件以来同国トノ關係円満ヲ欠ク為感
情ノ融和ヲ計ラントスルニアルヘク四月十一日連邦中執委
員會当番議長タリシ「ムサベークフ」氏カ開會ノ辞中最近
独逸トノ關係幾分停頓シタルモ「ラパロ」条約締結以来試
練を経タル両国ノ親善及両国ノ經濟提携ヨリ受クル双方ノ
利益ニ鑑ミ独逸政府ニ於テ「ラパロ」ニ於テ確立セラレタ
ル対露方針ヲ維持セラレンコトヲ希望スト述ヘタルモ之カ
為ナルヘシ

尚「リトヴィーノフ」ハ右報告演說中「ソ」連政府カ内政
上ノ困難ノ為國民ノ不滿ヲ外ニ向ケムトシテ波羅的地方攻
撃ノ戦備ヲ整ヘツツアリトノ風說(寿府発行「バックス」紙
所載)ニ言及シ斯ル風說ヲナス外交官及武官ヲ知ルト述ヘ
タルカ右ハ在当地仏国大使及波蘭公使館付武官ヲ指スモノ

尚本信ハ特ニ米国經由送付ス

記

第一、軍縮會議準備委員會第五回會議ノ開期

客年十二月本委員會第四回會議ニ於テ主トシテ独逸及
「ソヴィエト」連邦代表ノ要求ヲ満足セシムル為次回會
議ヲ本年三月十五日ヨリ開催スルニ決セル次第ハ當時報
告ノ通ナルカ軍縮條約案中各国政府間ノ意見一致ヲ見サ
ル点殊ニ海軍條項ニ付其ノ後關係国政府間ニ何等直接交
渉ノ進捗セル事実ナク從テ今直ニ條約案第二讀會ヲ行フ
モ何等妥結ニ達スルノ見込ナキコト前回會議ノ際ト全ク
同一ナリシノミナラス他方仏独其ノ他ノ諸国ハ総選挙ヲ
眼前ニ控ヘ居リ今直ニ確タル方針ヲ決定シ難キ立場ニ在
リシヲ以テ第五回會議ヲ予定ノ如ク三月十五日ニ開クハ
策ノ得タルモノニ非ストスルノ說連盟事務局内部其他ニ
行ハレ杉村政治部長カ安全保障委員會ノ事業ニ関シ諸国
政府ヲ歴訪セル際ニ得タル印象ニ依ルモ英仏兩政府共本
委員會延期ヲ希望シ唯何レモ自ラ率先シテ延期說ヲ唱ヘ
以テ独逸其ノ他ヨリ軍縮事業ニ対スル誠意ヲ云為セラレ
進ンテハ彼等ニ軍備復活ノ口実ヲ与フルヲ欲セス互ニ形

ナリト取沙汰セラル
右報告ス

写送付先 在巴里國際連盟帝國事務局長

68 昭和3年5月3日

在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛

軍縮準備委員會第五回會議に關する所感報告

機密連本公第二八〇号

(5月30日接受)

昭和三年五月三日

在巴里

國際連盟帝國事務局長 佐藤 尚武(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

軍縮會議準備委員會第五回會議ニ關スル感想

等報告ノ件

三月十五日ヨリ同二十四日迄寿府ニ開催ノ軍縮會議準備委
員會ノ經過ニ関シテハ四月十二日付普通連本公第二四二号
拙信ヲ以テ報告書送付ニ及ヒ置キタル処同會議中得タル感
想其ノ他報告書中特ニ記載セサリシ事項左記ノ通何等御参
考迄申進スルニ付御査閱相成度シ

勢觀望ノ姿ナリシ趣ナリ

一方議長ハ前回委員會ニ於テ次回會議開期ヲ確定セルコ
トニモアリ其ノ一存ヲ以テ之ヲ延期スルノ責任ヲ執リ難
ク若シ之ヲ延期セムトセハ委員會各員ヨリ一々承諾ヲ取
付クルノ要アリ而シテ其ノ際独逸及「ソヴィエト」連邦
代表ノ反対アルヘキハ勿論其ノ他ノ代表中ニモ案外反対
者ナキヲ保シ難カリシニ付旁々予定通三月十五日開會ノ
招請狀ヲ發スルコトニ決シタル次第ナリト云フ而シテ其
ノ後三月ノ理事會中主要國理事會間ニ本委員會延期方ニ関
シ談合アルヤモ知レスト予想スル向モアリシカ結局其ノ
コトナク遂ニ予定通開會トナレル次第ナリ但シ三月十五
日ヨリ之ヲ開クモ軍縮條約案第二讀會ニハ入ラサルヘシ
トハ開會前ヨリ各方面ニ於テ予測セラレ居タリ

第二、土耳其ノ参加

土耳其ヲ本委員會ニ招請スルコトニ関シテハ先ツ「ソヴ
イエト」連邦代表ヨリ連盟事務總長宛書翰ヲ以テ提議ス
ル所アリ次テ三月理事會中波蘭理事ヨリ同様ノ提案アリ
テ理事會ハ形式上後者ノ提案ニ基キ土國ヲ招請スルニ決
シタルカ波蘭ハ事實上既ニ三ヶ月前ヨリ同國招請ヲ考慮

第四、独逸代表ノ態度

員会ヲ脱退スルカ如キコトナカルヘシトハ前回會議感想中ニモ記述シ置キタル所ナルカ果シテ同代表ハ右案ノ否決セラルルコト略明白ナルヤ予テ準備セル第二案即チ軍備漸減案ヲ改メテ提出セリ右第二案ハ第一案ト異リ軍備ノ縮少ヲ規定スルモノナルカ故ニ委員會從來ノ方針ニ接近シ来レルモノナリトハ云ヘ同代表ハ本案ヲ以テ軍備全廢ノ第一階梯タルモノニ過キスト為セルノミナラス委員會第三回會議ノ際英仏代表ノ提出セル軍備縮少條約案同様ニ之ヲ取扱ヒ直ニ之カ第一讀會ヲ開カムコトヲ主張シ居ルヲ以テ次回委員會ニ於テハ同代表カ本案ヲ委員會案ノ修正案トシテ提出スルコトニ同意セサル限リ先ツ本案ニ始末ヲ付ケタル上ニ非レハ委員會案ノ第二讀會ニ入ルコト能ハサルヘシ而シテ委員會カ再ヒ本案ヲ否決シ去ルモ「ソ」代表ヨリ第三案ヲ提出シ来ルコトナキヲ保セスシテ同代表カ出来得ル限リ永ク委員會ノ事業ニ参加シ之ニ依リテ自國ノ主張ヲ宣伝シ且ハ自國ニ有利ナル何等カノ收穫ヲ得ムトスルノ意向ナルコトハ略明白ニ看取セラレタリ

シ居タル趣ニテ非連盟國タル「ソ」連邦ニ先鞭ヲ付ケラレ茲ニ正式ニ理事会ニ右提議ヲ為スニ至リタル次第ナリ土國政府ハ委員會開會ノ數日前ニ招請狀ヲ受ケ直ニ之ニ応スヘキ旨回答スルト共ニ同國外相自ラ本委員會ニ出席スルニ決シタルノミナラス本委員會討議中同國ハ安全保障委員會ニモ正式ニ代表者ヲ出スヘキ旨ヲ明ニセリ同國ノ國際連盟ニ對スル態度ハ「ソヴィエト」連邦ノ如ク連盟ニ反對シツツ之ヲ利用セムトスルモノニハ非スシテ相當ニ好意ヲ有スルモノノ如ク將來或條件例ヘハ理事會参加等適當ナル條件ニ付満足ヲ与ヘラルルニ於テハ連盟加入ノ可能性絶無ニ非サルヤニ觀測セラル

第三、「ソヴィエト」連邦代表提案

「ソヴィエト」連邦代表ノ提案セル軍備全廢條約案ニ付テハ最初之ヲ小委員會ニ付託シテ円滑ニ葬リ去ラントスルノ計畫モアリタルヤニ聞込ミタルカ同案ノ討議ニ入ルヤ劈頭「ソ」代表ヨリ各大國ノ代表者ヲ有スル本委員會ノ席上ニ於テ公ニ且輿論環視ノ下ニ主義上諾否ノ回答ヲ与ヘラレ度シトノ挑戰的質問アリ次テ土耳其代表ヨリ本案ヲ小委員會ニ付託スルヲ不可トスル旨主張スル所アリ

結局本委員會ニ於テ各代表ヨリ夫々其ノ意見ヲ開陳スルコトトナリ我方亦独伊英各代表ニ次テ同案反對ノ声明ヲ為シタル次第ナリ

右各國代表ノ意見ヲ見ルニ「ソ」連邦ト外交關係ヲ有セサル國ト之ヲ有スル國トニ依リテ該案ニ對スル反對ノ態度ニ多少強弱ノ差アリタルコトハ掩ヒ難ク就中英國代表ノ約二時間ニ亘ル痛烈ナル反對演說ハ期セスシテ滿場ノ喝采ヲ博シタリ要スルニ諸國代表ノ意見ハ(一)「ソヴィエト」案ノ根本主義ニ反對ナル以上其ノ條約案細目ノ審議ニ入ルノ要ナシトスルモノト(二)「ソ」側ヲ委員會案ニ引付ケントスルノ目的ヲ以テ「ソ」條約中ニモ本委員會將來ノ事業ニ對スル有益ナル資料ヲ包含シ居ルコトアルヘキニ付同案ヲ仔細ニ研討スルノ要アリト為スモノト(三)派二分レタルカ「ソ」代表自ラ前者ヲ主張シ委員會カ別個ノ根本主義ニ基キ該條約案中ノ一部分ヲ採択スルモ右ニ對シテハ何等責任ヲ執ル能ハスト言明シ寧ろ之カ否決ヲ促スカ如キ態度ニ出テタルヲ以テ遂ニ全体トシテ之ヲ否決シ去ルニ決セル次第ナリ

「ソ」代表ハ其ノ軍備全廢案ヲ否決セラルルトモ直ニ委

独逸政府カ同國独自ノ立場及其ノ國內政策上軍備條約案第二讀會及軍縮本會議ノ即開ヲ主張シ居ルコト依然トシテ變更ナク從テ今回ノ會議ニ於テモ同國代表ハ英仏其ノ他委員會ノ多數カ第二讀會即開ニ反對ナルコトヲ知り乍ラ自國ノ主張ヲ繰返ササルヲ得サル苦境ニ立テリ而シテ委員會ノ意向カ第二讀會延期ニ在ルコト明白ナルヤ之亦通過ノ見込絶無ナル第一回軍縮本會議即開ニ關スル決議案ヲ提出シ其ノ否決セラルルヤ更ニ軍縮事業ノ停頓ヲ遺憾トスル旨ノ聲明ヲ為ス等同國ノ主張擁護ノ為能フ限リノ努力ヲ為セルモ大勢如何トモシ難ク且其ノ態度余リニ執拗ナリトノ惡印象ヲサヘ与ヘタルノ觀アリキ

尚同代表カ希臘代表ノ言ヲ捕ヘテ「独逸ノ軍備制限ハ規約ノ規定ト兩立シ難シ」ト云ヒテ滿場ノ失笑ヲ買ヒ又「独逸ハ『ヴェルサイユ』條約ニ依リ他國ニ對シ軍縮ノ債權ヲ有ス」ト述ヘタル為該條約第五編ノ前文ニ關シ之迄屢々繰反サレタル論争ヲ再燃セシメ英仏代表ヨリ反駁セラレタル等独逸ハ他國力速ニ軍縮ヲ行ハサレハ再ヒ軍備ヲ整フルノ權利ヲ回復スヘシトノ主張ヲ為シツツアリトノ非難他國等ニ於テ相當盛ナル折柄一段ノ注目ヲ惹キタ

リ

第五、「ソヴィエト」連邦代表ト土、独兩代表トノ提携

土耳其參加ニ関シテハ最初「ソヴィエト」連邦代表ヨリ
同國招請ノ提議出テタルコトニモアリ非連盟國タル兩隣
接國間ノ提携ハ會議前ヨリ多少予想セラレ次テ土國代表
カ「ソヴィエト」連邦軍備全廢案ヲ小委員會ニ付託
スヘカラスト主張セル際ノ如キ兩代表間ニ相當ノ了解ア
ルヤノ印象ヲ与ヘタルモ其ノ後同案ニ對スル意見開
陳ノ際「ソヴィエト」代表ノ要求ニ反シ該案ヲ委員會作
成ノ軍縮案ト同時ニ併行審議スヘシト主張シ以テ独
立且中間的ナル態度ヲ示スニ至リ兩國間ノ提携必スシモ
事實ニ非サルコトヲ明白ニセリ

次ニ独逸代表ト「ソヴィエト」代表トノ間ノ意見ノ一致
ハ前回委員會ノ際ノ程度以上ニ出テス即チ連盟從來ノ軍
縮事業ヲ無視セムトスル「ソ」代表ト之ヲ無視セスシテ
専ラ促進セムトスル独逸代表トノ間ニハ非連盟國ト連盟
國トノ立場ノ相違アルモ他方ノ主張中自己ノ主張貫徹ニ
利用シ得ヘキ点ヲ相互ニ利用セムト試ミタルコト前回同
様ナリ例ヘハ独逸代表カ「ソ」代表ノ軍備全廢案ニ對ス

トナカラムコトヲ希望シ從テ次回委員會ハ第二誂會ヲ行
ヒ得ルコト確實トナレル時期ニ於テ之ヲ招集スヘキコト
ヲ議長ニ一任シ何等確定開期ヲ定メサルヲ可トスル旨ヲ
主張シテ委員會ノ容ルル所トナレリ

尚米國ハ安全保障委員會ニ代表者乃至「オブセルヴァ
ートル」ヲ出シ居ラサル關係上同委員會ノ事業審査ノ際
ニハ安全保障問題殊ニ不戰條約提議ニ関シ何等カノ聲明
アルヤモ知レスト予想セラレタルカ遂ニ其ノコトナク唯
「ソヴィエト」提案ノ討議ノ際「ソ」代表ヨリ不戰條約
締結ヲ提唱シツツアル國ハ論理上当然軍備全廢案ニ賛同
スヘキコトヲ期待スト述ヘタルニ對シ米國代表ヨリ米國
政府ハ不戰條約ノ効果ニ付テハ確信ヲ有スルモ軍備撤廢
案ニハ何等ノ信賴ヲモ置キ難シ云々ト簡短ニ回答セルニ
止マレリ右ニ對シ「ソ」代表ハ米國代表カ本件ニ関スル
同國政府ノ見解ニ付何等ノ説明ヲ与ヘサリシコトヲ遺憾
トスル旨ヲ述ヘタルカ將來不戰條約成立シ「ソ」連邦ノ
加入ヲ求ムルコトアルヘキ場合ニハ右ノ点ニ関スル論議
ヲ再燃スルコトアルヤモ知レスト思考ス

第七、軍縮案ニ關スル關係國政府間意見交換

ル意見陳述ノ際漠然同案中自國ノ主張ト合致スル二点ヲ
挙ケテ直ニ委員會案第二誂會ト共ニ同案ノ細目研究ヲ行
ハムコトヲ主張セルカ如キ又「ソ」代表カ其ノ軍備漸減
案ノ第一誂會即開ニシテ容レラレスハ第一軍縮本會議開
催ニ関スル独逸案ヲ熱心支持スヘシト云ヒ次テ右独逸案
否決セラレタル後「ソ」代表軍備漸減案ノ第一誂會ヲ即
開スルヤ否ヤノ討議ニ移ルヤ独逸代表独リ之カ即開ニ贊
同セルカ如キ其ノ顯著ナル証左ト云フヘシ

第六、米國代表ノ態度

米國ハ今回再ヒ「ギブソン」大使ヲ代表トシ其ノ他客年
三國會議ニ出席セル「ジョーンズ」「ロング」兩將軍ヲ態々
本國ヨリ派遣スル等（右海軍專門委員ノ派遣方ニ関シテ
ハ會議前「ギブソン」大使自ラ連盟事務總長ヲ往訪シ其
ノ意見ヲ求メタル処事務總長ハ派遣方然ルヘキ旨回答セ
ル為右ニ決セル趣ナルカ「ジョーンズ」將軍ハ遂ニ會議
ニ間ニ合ハサリキ）軍縮案第二誂會ノ行ハルヘキコ
トヲ予想シテ本會議ニ重キヲ置ケルコトヲ明ニセルモ會
議ニ於テハ別段第二誂會ノ即開ヲ要求スルコトナク唯將
來再ヒ專門委員ヲシテ本國ヨリ無駄足セシムルカ如キコ

三月上旬安全保障委員會中英國代表ハ本官ニ對シ軍縮案
約案海軍條項ニ関シ其ノ内仏國側ト意見交換ヲ試ムル積
ナル旨内話セル次第及今次軍縮準備委員會中仏國代表ヨ
リ關係國間ニ本件ニ関スル意見交換都合ヨク進行中ナリ
ト信スル旨聲明シ議長ハ條約案第二誂會延期ノ理由トシ
テ右聲明ヲ引用シ次テ英國代表之ヲ確認スル旨陳述シ我
方亦右意見交換ニ賛成ナル旨述ヘタルニ對シ伊國代表ハ
本件ニ付留保スル旨聲明セル次第ハ當時電報ヲ以テ申進
置タル通ナルカ仏國代表カ先ツ右聲明ヲ為シタルハ本委
員會中海軍專門委員間ニ極メテ非公式ノ意見交換アリタ
ルヲ幸ヒ英國代表ヨリノ依賴ニ基キ之ヲ試ミタルモノニ
シテ又伊國ヲ除外セル態トナレルハ同國專門委員カ海軍
問題ニ付何等讓歩ノ態度ヲ示ササルカ為ナリト云フ尤モ
右專門委員間ノ意見交換ト云フモ今迄ノ所何等纏リタル
結果ニ達シタル次第ニハ非ス而シテ今後各國政府間ニ何
等カノ形式ニテ直接意見ノ交換ヲ行ヒ或ル程度ノ妥協ニ
達シタル上ナラテハ第二誂會ノ運トハナラサルヘク從テ
其ノ時期ハ目下ノ処全然未定ナリ

69 昭和3年6月18日

在バリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

軍縮準備委員會事業に関し遠からず英仏間に
妥協成立するとの連盟関係者の内報について

第八六号

安達理事ヨリ

寿府発往電第三一号ノ(三)ニ関シ

十五日「ベルトロウ」ト会谈中「ベ」ハ軍縮準備委員會事業ニ付テハ「ボール・ボンクール」理事会ヨリ帰巴後話大ニ進ミ遠カラス英仏間ニ意見纏マルヘク来ル二十七日ヨリ開催ノ安全保障委員會ニハ之ヲ披露スルニ至ルナラン要旨ハ海軍ニ関シテハ主ニ英案ヲ陸軍ニ関シテハ主ニ仏案ヲ採用スルニ有リト内報セリ

70 昭和3年6月28日

在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

海軍問題に関する英仏妥協につき加藤海軍代

二、⁽²⁾ 加藤曰ク

小官ノ所見ニ依レハ仏「ボンクール」案ニ更ニ一割以内融通案ヲ加フルニ於テハ日本従来ノ主張タル艦種別噸数制限案ト主義上全然異ナル処アルモ實際上略々大差ナキ結果トナルヘキハ首肯シ得ル処ニシテ英、米(本年三月「ロング」海軍少将ノ内話ニ依レハ米ハ略々同意ナルカ如シ)之ニ同意ナルニ於テハ小官亦大体ニ於テ之ニ反対セサルヘク六吋砲ノ制限ナキ巡洋艦二種案ニ関シテモ主義上同意ヲ表シ差支ナシト認ムルモ素ヨリ駆逐艦以下其ノ他細目ニ亘リテハ意見ヲ留保スヘク又航空母艦ニ付テハ別ニ一万噸以下ノ航空母艦ナル艦種ヲ加ヘ度キ意見ナリ尚全体ニ関シ更ニ熟考シ置クヘキモ前記諸意見ハ単ニ小官一己ノ私見ニシテ何等政府ノ措置ヲ拘束スルモノニ非ス而シテ貴見ニ関スル英政府ノ意向等承知シ得レハ好都合ナリ

三、「ケリー」曰ク

英政府ノ意見ニ付テハ差支無キ限り追テ内報スヘシ余ハ本月十一日以来仏国ニテ静養中ナリシ為最近倫敦ニ居ラス此ノ会議終ラハ直ニ帰英海軍省ト協議スル考ナリ一万

表とケリー英國海軍代表との会谈について

ジュネーヴ 6月28日後発

本 省 6月29日前着

第三四号

⁽¹⁾ 六月二十八日加藤海軍少将ハ英海軍代表「ケリー」中將ノ要求ニ依リ同中將ト会見ス軍縮準備委員會海軍事項ニ関スル談話ノ要旨左ノ通

一、「ケリー」曰ク

本件何等英海軍省ノ指示又ハ同意ヲ受ケタル次第ニ非サレトモ艦艇制限方式ニ付日、米、仏(伊トハ云ハス)従来ノ主張ニ鑑ミ一ノ妥協案トシテ仏「ボンクール」案ニ於ケル艦種別ヲ左記ノ如ク改メ起工一年前ノ予告ニテ各艦種別毎ニ其ノ割当噸数ノ一割以内ヲ彼此融通變更シ得ルモノト為スニ於テハ事実上英國従来ノ主張タル艦種別噸数及隻数案(隻数主義ヲ捨ツ)ニ改ムルモ差支無シト思考スル処貴下ノ意見如何

艦種別(一)主力艦(二)航空母艦(三)一万噸以下八千噸ニ至ル巡洋艦(四)八千噸以下ノ巡洋艦(備砲ハ八吋以下トシ六吋砲ノ制限ヲ置カス)(五)駆逐艦(六)潜水艦大小

噸以下航空母艦ノ件ハ初耳ナレトモ余ハ別ニ反対ノ意見ナシ又仏海軍委員ハ「ケリー」案ニ付特ニ反対ノ模様見ヘサレトモ伊海軍委員ハ終始自國案ヲ固執シ目下何等妥協ノ色見ヘス

四、前項「ケリー」ノ談アリタルモ加藤カ去ル二十五日仏「ドルーズ」中佐ト会谈ノ際仏ハ巡洋艦二種案ニ付テハ直ニ同意シ難カルヘキ旨内話セル由

如上「ケリー」案ニ関シ此ノ際本官及加藤少将ニ於テ心得置クヘキ事項等御内意承知致シ度シ

英ニ転電シ米、仏、伊ニ暗送セリ

71 昭和3年7月3日

在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

英国妥協案への我が方対応につき請訓

ジュネーヴ 7月3日後発

本 省 7月4日前着

第三六号

往電第三四号ニ関シ

「クッシェンダン」ノ内話ニ依レハ英ノ妥協案ニ対シ仏ハ

未タ同意ヲ表セサルノミナラス巡洋艦ヲ二種ニ區別スル点ニ付頗ル難色アルモノ如ク英、仏間妥協ノ前途尙遼遠ナリ

右ニ付日本ニ於テ英案ニ対シ支持ヲ与ヘラルレハ仏ノ譲歩ヲ促進スル為大ニ都合ナリ尙米ノ態度ハ全然不明ニシテ大統領選挙前話ヲ始ムルハ却テ危険ニ付暫ク差控フル考ナリ云々

我方ハ英、仏間ニ介在シ予メ出来得ル丈我ニ有利ノ方向ニ妥協ヲ勸ムルヲ得策トスヘキニ付可成速ニ往電第三四号ニ対スル御回訓ヲ待ツ

72 昭和3年7月12日 田中外務大臣より
在パリ佐藤連盟事務局局長宛(電報)

英国ケリー案に対する我が方対応につき回訓

本省 7月12日後発

第八八号

寿府発貴電第三四号ニ関シ

(欄外記入) 一、海軍軍備制限問題ニ関シテハ目下海軍側ニ於テ問題全般ニ亘リ再研究中ニシテ遠カラス一通完了シ政府ノ方針

トシテ決定セラルル上ハ適當ノ機会ニ於テ從來軍縮準備委員会ニ於ケル我方主張タル水上補助艦一括主義ヲ変更スル要アリトモ認メラルルニ付テハ左記御含ノ上仏海軍トノ從來ノ行懸並ニ米仏等ノ態度ヲモ考慮シ追テ何等訓令アル迄窮屈ナル拘束ヲ受ケサル用意ノ下ニ「ケリー」氏今回ノ提言ヲ機会トシ他日右我方從來主張ノ改更ヲ円滑ナラシムルニ便ナル様適宜応酬アリ度ク又補助航空母艦ニ関シテハ加藤代表今回ノ発言ヲ緒トシ本艦種類別設定ニ努メラレ度

(一)大型巡洋艦ハ別個ニ類別スルヲ有利ト認ムルニツキ此ノ点主義上英案ニ同意、大型巡洋艦以外ノ水上補助艦ヲ小型巡洋艦及駆逐艦ノ二種ニ分類スルコトニ異存ナキモ此等三種ノ区分方法ニ関シテハ尚研究中

(二)「ケリー」案ノ各類別噸数一割以内彼は融通ノ件ハ華府条約ヲ動搖セシメサルコト又將來少ナクモ日英米三国間ニ於テハ主力艦航空母艦及大型巡洋艦ノ三種ニツキ之ヲ適用セサルコトヲ条件トスルニ於テハ異存ナシ

二、前項末段一割以内融通トハ(甲)或ル艦種(一種若クハ二種

以上)ノ割当噸数ノ一割以内ヲ減シ之ヲ以テ他ノ艦種(一種若クハ二種以上)ヲ其ノ割当噸数ノ各一割以内増スコトヲ得ルノ意ナルヤ或ハ(乙)仮令ハ主力艦ノ一割ヲ減シ之ヲ以テ潜水艦ヲ倍加スルコトヲモ妨ケサルノ意ナルヤ回電アリ度

本電加藤代表及古賀武官ニ伝ヘラレ度
英、米、伊ニ暗送シ仏ニ伝達アリタシ

(欄外記入)

海軍省ト協議スミ

73 昭和3年7月16日 在パリ佐藤連盟事務局局長より
田中外務大臣宛(電報)

英国ケリー案における艦種別割当噸数融通と

潜水艦の類別について

パリ 7月16日後発
本省 7月17日前着

第一〇六号

貴電第八八号ニ関シ

一、「ケリー」案ノ各類別割当噸数各一割以内融通トハ当方

ニテハ目下ノ処貴電中第二項(甲)ノ通ト解釈シ居レリ加藤少将ノ所見ニ依レハ本件ハ本年三月同官発海軍次官、軍令部次長宛機密第三番電ノ通仏国側ノ提案トシテ「ポール・ボンクール」案ニ於テ起工一年前ノ予告ヲ以テ「各類別割当噸数ヲ變更シ得ルモ該變更ハ各固有割当噸数ノX『パーセント』以上ヲ超過スルヲ得ス」トノ条件ヲ付加セントスル事ニ端緒ヲ發セルモノナリ今般「ケリー」案ニ於テハ之ヲ一割ト仮定セルモノナルニ付右一割ノ數字ニ関シ仏ハ未タ同意ヲ表シ居ラサル次第ナリ

二、去ル四日寿府ニ於テ加藤ハ「ケリー」ニ対シ從來ノ英案艦艇類別中潜水艦大小二種別アル処英ハ今後尚本案ヲ鮑ク迄主張スルヤト問ヒタルニ「ケリー」ハ英海軍トシテハ從來通之ヲ主張シタキモ四圍ノ状況之ニ同意ノ各国委員尠ナキニ鑑ミ私見ニ依レハ敢テ二種別ヲ固執セサルモ差支ナシト認ムト答ヘタル由

英、米、仏、伊ニ暗送セリ

74 昭和3年7月31日 在パリ佐藤連盟事務局局長より
田中外務大臣宛(電報)

軍縮案海軍事項に關し英仏兩國間に妥協成立について

本 省 8月31日後発
本 省 8月1日後着

第一一六号
寿府發往電第三六号ニ関シ

三十一日仏國連盟事務局長ハ軍縮案海軍事項ニ関シ先般來英仏兩國政府間ニ話合進行中ナリシ処今般漸ク妥協成立セリトテ別電第一一七号ノ如ク新「フォルミュール」ヲ手交シ右ニ對スル帝國政府ノ好意的考量ヲ得度旨ヲ述ヘ且(一)新案ノ特色ハ小型水上補助艦及小型潜水艦ヲ全然制限外ニ置ク点ニ存スル処右ハ準備委員會及三國會議ノ際現ハレタル各國間ノ異ナレル主張ヲ調和スル唯一ノ方法トシテ案出セルモノナルコト(二)仏妥協案ノ各艦種ニ對スル割當噸數融通ノ考ハ全然放棄セルコト(三)本案ハ我方及米伊ノ三國政府ニノミ内示スル次第ニ付其内容ハ機密ニ付セラレ度旨ヲ付言セリ

別電ト共ニ英、米、仏、伊ヘ転電セリ

編 注 別電第一一七号見当たらず。

下ノ潜水艦ハ制限以下ニ置カレアル処右ハ客年寿府會議ニ於ケル米國側主張ト懸隔アリ殊ニ小艦艇ヲ制限外ニ置クニ於テハ制限ノ意義ヲ為ササルノミナラス英國ノ如ク世界各地ニ海軍根拠地ヲ有セサル米國トシテハ極メテ不利ト認ムトテ米國トシテハ本案ノ儘ニテハ直ニ賛成シ難キヤノ口吻ヲ示シ居リタリ尚本官ヨリ不戰條約調印ノ際巴里ニ於テ關係國全權間ニ海軍制限其ノ他ノ政治問題論議セラルルカ如キ事無カルヘキヤト尋ネタルニ對シ新聞紙等ニハ右機會ニ米國關係ノ歐洲諸問題論議セラルルナルヘシト取沙汰セラレ居ルモ當方トシテハ是等問題ハ普通ノ外交機關ヲ經テ處理セラルヘキモノト認メ居レリ從テ海軍制限問題ノ論議ニ入ルカ如キ事ハ斷シテ為ササル積リナリト述ヘ居リタリ連盟ニ転電シ英伊ニ転電シ仏ニ轉達セシム

76 昭和3年8月26日

在ソ連邦田中大使より
田中外交大臣宛(電報)

次回軍縮準備委員會早期開催に關するリトウイノフ書簡について

モスクワ 8月26日後発

75 昭和3年8月7日
在米國澤田(節藏)臨時代理大使より
田中外交大臣宛(電報)

海軍事項に關する英仏妥協案に對シキヤッスル米國國務次官補の意見について

ワシントン 8月7日後発
本 省 8月8日後着

第二八三号

佐藤連盟事務局長發閣下宛電報第一一七号ニ関シ最近二回他用ヲ以テ「キヤッスル」次官補ニ面会ノ節右英仏妥協案ニ對スル米國側ノ態度等ヲ尋ネタル処同官ハ自分ハ海軍専門家ニモ非ス又本件ニ付テハ目下専門家ニ於テ折角研究中ニテ之ニ對スル政府ノ意見ハ九月十日國務長官巴里ヨリ歸來シ次イテ大統領避暑地ヨリ歸ル迄ハ決定ノ運ニ至ラサルヘク旁々全ク自分限りノ意見ナルカト前置シタル上打明ケテ言ヘハ從來仏國カ総噸數制限ノ主義ヲ把持シ居リタルニ今回艦種別ニ依ル制限ニ同意セルハ結構ノ事ト存シタルモ其ノ後熟読スルニ及ヒ種々ノ疑問ヲ生シ特ニ右案ニ依レハ噸數一万以下備砲六吋以下ノ補助艦艇及六百噸以

本 省 8月27日前着

第三六三号

二十六日外務部發表ニ依レハ軍縮會議準備委員會ニ於ケル蘇連邦「リトヴィノフ」ハ委員長 London 宛二十日付書翰ヲ以テ同委員會第五回會議ニ於テ蘇連邦第二次提案力回會議迄審議ノ延期トナリ次回會議ハ成ルヘク短期間ニ出來得レハ次回連盟總會前ニ開催スルコトナリタル経緯ヲ述ヘ第五次會議以來時ヲ閱スルコト五ヶ月此ノ間歐洲及極東並ニ其ノ他ノ地方ニ於テ平和攪亂ノ危険ヲ表示スル幾多ノ事件發生シ連盟總會ハ九月三日ニ開催ノ事トナリタルニ拘ラス準備委員會召集ノ通知無キ処右委員會ハ何故連盟總會前召集スルコト能ハサリシヤ其ノ即開ニ付如何ナル障害アリシヤ何日召集セラルヘキヤヲ承知シ度キ旨申入レタリ尚「リトヴィノフ」書翰中ニハ前回會議カ急速ニ閉会シ次回會議ノ会期明示無カリシ理由ハ二大強國間ニ意見ノ相違ヲ來シタル為ナリシカ其ノ一國タル英國ノ外相ハ今回右ニ付妥協成立セリト声明シ蘇連邦ノ軍縮案ヨリモ平和維持安全保障軍縮實現ノ為更ニ有効ナルヘシト考ヘラレタル不戰條約カ發案者ノ声明ニ依リ軍縮問題トハ何等關係無キコト明

カトナリタルコトヲ列国ニ対スル批判ヲ交ヘテ委員會従来ノ方法ニテハ成功ヲ収メ得ルヤ疑問ナリト敷衍シアリ二十六日ノ「イズヴェスチア」ハ正當ノ質問ト題スル社説ヲ掲ケ「リトヴィノフ」書翰ノ趣旨ヲ敷衍セリ

77 昭和3年11月1日 在パリ佐藤連盟事務局局長より
田中外務大臣宛(電報)

軍縮準備委員會の将来に関するドラモンド連盟事務総長の杉村公使への談話について

パ リ 11月1日後発
本 省 11月2日前着

第一八六号

三十一日「ドラモンド」ハ杉村公使ニ対シ軍縮準備委員會ノ将来ニ関シ左ノ通語レル趣ナリ
軍縮部長「コルバン」ハ本委員會ヲ来年四月頃開催シ其ノ結果ヲ六月理事会及九月総会ニ報告スルト共ニ場合ニ依リテハ夫レニテ委員會ノ事業ヲ打切ルコト然ルヘシトノ意見ヲ有スルモ自分「ド」ハ委員會ハ矢張り是ヲ存続シ置クコト諸般ノ点ヨリ必要ナルヘク而シテ来年一月是ヲ開キ現

ヤト反問セルニ「ド」ハ明答ヲ避ケタル趣ナリ(此ノ点ニ関シ杉村ハ英米間ニ何等仏国側等ニ知ラレテハ都合悪キ話合行ハレ居ルニ非サルカトノ感想ヲ得タル由)前記諸点ハ英米間話合ノ部分ヲ除キ往電第一八二号本官「ド」トノ会谈ノ際ニモ「ド」ヨリ大要同趣旨ノ内話アリタリ御参考迄米ニ転電シ英、伊、仏ニ暗送セリ

78 昭和3年12月14日 在ルガノ佐藤連盟事務局局長より
田中外務大臣宛(電報)

軍縮準備委員會の開催期に関する連盟理事国間の意見交換について

ルガノ 12月14日前発
本 省 12月15日前着

第一二二号(極秘)
安達理事ヨリ

十三日理事会議長ノ午餐会ノ席上日、英、仏、独、伊五国理事間ニ於テ軍縮準備委員會ノ開催期ニ関シ意見ヲ交換セルカ「ブリアン」ハ来年早々開催スルモ成功ノ見込無カルヘク又米國ハ三月初旬新大統領就任迄ハ態度未定ナルヘク

状ノ確認(コンスタシオン)ヲ行ヒ六ヶ月ノ後再ヒ開クコトトセハ如何ト思考ス一月ニテモ四月ニテモ軍縮問題ノ現状ニ大差ナカルヘク又右六ヶ月間ニ各國政府間ニ話合ヲ遂クレハ多少ハ局面展開ノ途モ見出し得ヘキカト考フ云々

右ニ対シ杉村ハ大体賛成ノ意ヲ表シタル後來ル十二月五日ニ開カルヘキ武器民営特別委員會ニテ何等カ話合ヲ遂ケントノ噂ヲ耳ニセルカ右ニ対スル英國側ノ意向如何ト問ヒタル処英國政府筋ニテハスル形式及方法ニテ話ヲ始ムルコトハ徒ラニ事ヲ紛糾セシムルノミニテ宜シカラス目下ノ急務ハ各方面ニ蟠ル疑惑ヲ一掃スルニアリ故ニ斯ル私的会談ニテ話ノ端緒ヲ作ルヨリ軍縮準備委員會ノ如キ正式ノ機関ニテ来年早々堂々ト討論ヲ開ク方時期モ失セス又疑惑ヲモ招カスシテ可ナリトノ意向ニテ「ド」自身モ全然是ニ同感ナリト答ヘ又杉村ヨリ目下倫敦ト華府トノ間ニ何等カ内密ノ話合進行中ナルカノ噂ヲ耳ニセルモ如何ト問ヘルニ対シ「ド」ハ先般ノ米國回答ニ対シ英國政府ヨリ更ニ回答ヲ発スヘキ段取トナリ居ルニ付其ノ点ニ付話合ノ行ハレ居ルコトハ事実ナリト答ヘタルヲ以テ杉村ヨリ更ニ然ラハ軍縮問題實質ニ触レ意見ノ交換等絶対ニ行ハレ居ラサル次第ナリ

レハ三月末開催ノコトトシテハ如何ト諮リタルニ「チエンバレン」ハ右ニ同意シ米國政情ノ未定ナルヲ延期ノ理由トスルハ世間ニ対スル説明上大ニ可ナリト述ヘ「ストレーゼマン」モ全然右ニ賛成シ場所ハ寿府ナルヘシト問ヘルニ「ブリアン」ハ勿論ナリト答ヘ一同之ニ和セリ本使ハ日本側ニテモ右ニ異議ナカルヘシト告ケ「シヤロヤ」モ同意セリ尚海軍軍縮問題ニ関スル米國覚書ニ対シテハ準備委員會開會迄何等措置セサルコトトナリタルカ「ブリアン」ハ「チエンバレン」ニ対シ先頃ノ英仏協定ノ如キ何等意見ノ合致ヲ認ムルコトハ一種ノ陰謀ト見ラルル惧アルヲ以テ今後英米間ニモ右様ノコトヲ為ササル様望ムト云ヘルニ「チ」ハ勿論同意ナリト答ヘ且何事モ為サス現状ノ儘放置スヘシト付言セリ
英、米、仏、独、伊、白ヘ転電セリ

79 昭和3年12月25日

在ソ連邦酒匂(秀二)臨時代理大使より
田中外務大臣宛
軍縮準備委員會召集方再督促に関するリトウ

イノフ書簡について

公第三八六号

(昭和4年1月15日接受)

昭和三年十二月二十五日

在「ソヴィエト」連邦

臨時代理大使 酒匂 秀一(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

軍縮準備委員会召集方再督促ノ件

外務人民委員代理「リトヴィーノフ」氏カ「ソ」連邦側委員ノ資格ニ於テ軍縮準備委員会議長「ロウドン」氏宛右委員会至急召集方再度ノ督促ヲ発シタルコトハ往電第四五三号「ソ」連邦中執委員会々議ニ於ケル同氏(「リトヴィーノフ」)ノ外交経過報告中ニ明ナル処ナルカ右督促ノ書翰ハ十二月十二日ノ新聞紙ニ全文発表セラレタリ
右書翰ハ十二月五日付ニシテ先ツ「ソ」連邦側ヨリ本年八月二十日付ヲ以テ軍縮準備委員会カ第五回会議ノ決議(出来得レハ国際連盟総会前ニ召集スヘシトノ決議)アルニ不拘当時第六回会議不召集ノ原因及今後召集ノ予想期日ニ付照会ヲ発シタルニ対シ「ロウドン」氏ヨリ九月五日付ヲ以テ連盟総会前召集スルモ所期ノ結果ヲ見ルコト能ハサルコト

ト並召集予想期日ニ付テハ總會後決定スヘシトノ回答アリタルコトヲ述ヘタル後本年連盟総会カ軍縮準備委員会議長ニ委スルニ関係国政府ト接觸ヲ保チ関係国間交渉ノ状態ヲ究メ本年末然ラサレハ遅クモ一九二九年初ニ第六回会議ヲ召集シ得ル様取計フヘキ旨ノ極メテ不明瞭ナル決議ヲ採決シタル結果次回会議ノ召集ハ再ヒ数ヶ国間ニ行ハルル外交交渉ノ結果ニ待タサルヘカラサルコトナレリ「ソ」連邦委員ハ最後ノ軍縮委員会ニ於テ軍縮問題ヲ秘密裡ニ議スルコト並数ヶ国間ノ外交交渉ニ移スコトニ反対シスル方法ニヨリテ一般ノ賛同ヲ得ヘキ軍縮協定ノ基礎ヲ発見スルコトノ困難ヲ表明セルカ果シテ英仏間ノ軍縮交渉ハ準備委員会其ノ後ノ事業ヲ却テ困難ナラシメ右交渉ノ結果第五回会議ハ不成功ニ終リ第六回会議ハ未タ召集セラレサルナリ然ルニ今ヤ右両国間ノ交渉ハ一先ツ終了シ他ニ成行ヲ見極ムヘキ事件モナキニ付第六回会議ハ直ニ召集スルコト可然シ右交渉失敗ノ原因ハ各国個々ニ軍縮ノ限度ヲ設ケントシ各国一般ニ適用サルヘキ準則ナキニアリ「ソ」連邦政府ハ第五回会議ニ於テ各国一般ニ適用サルヘキ準則ヲ提議セリ軍縮委員会ニシテ事ノ進捗ヲ計ラントセハ「ソ」連邦政府ノ提

議セル部分的軍縮案ヲ速ニ審議スヘキナリト論シ「ロウドン」議長ニ対シ右「ソ」側案ヲ次回会議ノ日程ニ上ス様列国ニ提議セラレタシト請求セルモノナリ
右報告ス

80 昭和3年12月29日

在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

次回軍縮準備委員会開催と同会議において

予想される審議事項について

パ リ 12月29日後発
本 省 12月30日前着

第二一四号

往電第二一三号ニ関シ

準備委員会四月十五日開催ノ旨連盟事務局ヨリ正式通知ア

リタリ今回ノ会議ニテハ第一読会案ノ(一)器材制限(独逸案)、(二)予算制限、(三)監督機関、(四)公表問題(和蘭案)ノ外軍事年鑑ニ関スル独逸案アリ)等陸空軍関係諸問題並ニ軍縮ニ関スル「ソビエツト」案等主トシテ審議セラルヘシト思考セラレ海軍問題ニ就テハ勿論確言致シ兼ヌルモ或ハ此ノ機会ニ於テ正式ニ上程セラレサル迄モ海軍国間ノ内協議ヲ見ルコトナシトモ限ラサルヘシ
右ニ就キ当方ニテハ陸海軍代表ト協議研究ノ上二月中ニ意見具申更メテ請訓ニ及ヒ度心組ノ処今次委員会ハ昨年四月以来第二読会ノ延期ヲ重ネ来レル後トテ殊ニ一般ヨリ注目重視セラルヘキ模様ナルニ付独逸ニ於テモ各関係ノ向ニテ充分御研究準備セラルル様希望ニ堪ヘス